

はじめに

「消費税増税を煽るし、原発再稼働反対の集会を報道しない。オスプレイのこともよくわからない。

『一体メディアはどうなっているの?』『本当に信じていいの?』

そんな声が聞かれる昨今です。

メディアは今、どうなっているのか? 何が問題なのか?

メディアとどう向きあえばいいのか?」…。

今の時代の諸問題を学び合い、考え合う「平和の学び場・コラボ21」という素敵な集まりがあります。そこが主催する『ピースカレッジ2013前期講座』（5月18日～7月6日、4回連続）はそんなお誘いで始まりました。

その連続講座全体のタイトルは「メディアのいま、これからを考える 『情報の主人公』になるために」でした。それぞれのテーマと講師、開催日は以下のとおりでした。1回目は「新聞はどうなっているか」（丸山重威、5月18日、）、2回目は「テレビはどうなっているか」（仲築間卓蔵、6月1日）、3回目は「メディアとどう向きあうか」（北村肇、6月22日）、4回目は「雑誌はどうなっているか」（岡本厚、7月6日）、でした。

「そうね…、マスメディアの仕組みや動きはそれなりに話せるけれど、社会の動きと離れてマスメディアがどうなっているか、を議論しているだけでは意味がないよね。やっぱり、いまの世界と日本で何が起きていて、それがメディアによってどう伝えられているか、伝えられていないか、それに対して私たちメディアの受け手はどうしたらいいのかを考えないとね…」

主催者とも聴衆の皆さんとも、そんな議論を繰り返しながら、私たち4人は4回の講座で話し、聴衆の皆さんとメディア問題を考え合ってきました。

そして、「日本のメディア問題を全体的に考える意義深い機会だから、1冊の本にしましょう」と、当初からあけび書房代表の久保則之さんは熱意を表明してくださっていましたが、その熱意にどうこたえ、意義深い本づくりをするのか。講座が終了してからはその取り組みとなりました。毎日起きてくる新しい動きを以前の話の中にどう落とし込んでいくか、今のメディアをただすためにどうしたらいいのか、受け手の側が「情報の主人公」になるためにどうしたらいいのか、などなど。

そんな議論と試行錯誤の中で、「いまの日本で何が起きているのか」について、メディアに書かれていること、書かれていないことを含めて紹介する第Ⅰ部と、「メディア内部のメカニズム」をそれぞれ紹介する第Ⅱ部とする構成が生まれました。

憲法の危機、原発の危険が語られ、オリンピックや景気回復が吹聴される中で、消費税増税、社会保障削減、非正規雇用の拡大などで生活はますます厳しくなっています。この事態のなかでメディアはキチンとした報道をしているのか。報道していないとすれば、どこに問題があるのか。報道の中身の実際を通じてメディアを考えていただくことは、非常に大事なことだと思うのです。

私たち現代人とマスメディアは、切っても切れない関係にあります。私たちは、知らず知らずのうちに、マスメディアが作る世界で、ものを考えたり、行動したりしています。私たちの意識形成の中にいつの間にか忍び込んでいるマスメディアの情報…。

この小さな本が、読者の皆さんがマスメディアを考え、向き合い、それを変えるために発言していただくことに役立てば、筆者一同、こんなに嬉しいことはありません。

2013年10月

岡本 厚

北村 肇

仲築間卓蔵

丸山 重威